

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2302100107		
法人名	特定非営利活動法人 うらら		
事業所名	グループホーム うらら奥町 1F		
所在地	一宮市奥町字内込45-11		
自己評価作成日	平成23年 12月 19日	評価結果市町村受理日	平成24年3月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2392200107&SCD=320&PCD=23
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』
所在地	愛知県名古屋市中区三本松町13番19号
訪問調査日	平成24年1月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

併設の小規模多機能型居宅介護と合同でイベントを開催したり、お互いの利用者が行き来したりして、協力関係を築きながら取り組んでいる。
小規模を利用していた方が入居された後、小規模利用者がグループホームに遊びに来られるなど、利用者同士の交流も行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

小規模多機能と併設した複合型の事業所であり、そのメリットを活かし夜勤者が3人となっている。このことは、利用者、家族にとって安心感を与え、ホームに対する信頼感を得ることに繋がっている。さらに、避難訓練を毎月行っていることで、職員間の連携と連絡方法の確認を行っており、災害に対する意識も高い。ホーム名の「うらら」は、運営法人が展開している全ホームに共通した名称であり、利用者、家族、地域の方、職員も、ホームに関わる全ての方が、うららかに過ごしてもらうことを目指している。ホーム内は、風通しの良いリビング、利用しやすい和室、気軽に集まることができるキッチン等、細かな部分にまで設計を考えており、ゆったりと過ごせるように取り組んでいる。また、職員についても職員研修や職員会議を充実させており、資質向上が図られるように努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念を「絶え間ない 笑顔と優しさ うららかに」と定め、玄関に掲示している。	法人共通の「うらら」という言葉を掲げ、言葉の由来をホーム玄関先に掲げている。また、理念に基づく目標を掲げ、今年度は「笑顔」をテーマに職員間で取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会へ入会し回覧板を回してもらっているほか、行事の際には両隣にお声掛けとともにご挨拶に行くようにしている。敬老会の参加もしている。	町内会に入会し、地域のゴミ出しと清掃活動の協力を行っている。ホームで行う夏祭りやクリスマス会の際には、回覧板に案内を載せてもらい、地域の方との交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域への発信についてはなかなか出来ていないのが実情である。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	町会長、民生委員、ご家族の意見を聞きながら、サービスの質の向上に努めている。	会議は、併設する小規模多機能との合同であり、事業所の理解を深めてもらうことを中心に行っている。ホームを退居となった方にホーム利用者が会いに出掛けている取り組みなど、ホームでの暮らしぶりを伝えている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	出向くことはなかなか出来ないが、電話などで疑問点などを尋ねるようにしている。	市内の事業者連絡会では、施設部会に所属し、連絡会を通じて行政関係者からの情報を得るようにしているほか、不明点や困難事例があった際には、随時連絡と相談を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員会議の際に勉強会などを行うなど、スタッフへの意識づけに努めている。	研修を行い、身体拘束に関する職員の意識を高めるように取り組んでいる。ホームでは身体拘束を行わず、言葉掛けや利用者の対応など、随時指導、教育を行っている。なお、玄関には施錠をせず、地域の方も見守って頂ける関係を築いている。	職員における非常勤職者の比率が高いことで、ホーム内におけるスキルアップの機会を作りながら、資質向上の取り組みを継続されていくことを期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	改めて学ぶ機会は少ないが、普段の介護の中での意識づけに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者会議の議題に挙げるなど、制度の理解に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、重要事項説明書・契約書の内容を口頭で読み上げながら説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に、重要事項の説明の一環として苦情窓口の説明。玄関にご意見箱の設置。	家族とは、連絡帳をやり取りしながら、時には家族から手紙が来ることがあり、家族からの意見や要望を運営に反映させるように努めている。ホーム便り「うらら通信」を年6回発行し、写真入りで利用者の様子を伝えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度の職員ミーティング、フロアリーダー会議を開催し、改善できる部分から順次意見を反映している。	併設の小規模多機能との管理者会議、常勤職員の会議、全職員が参加する職員会議が行われ、意見や要望の伝達とその反映に努めている。管理者は、職員が意見を言いやすい環境をつくるように努め、リーダーやマネージャーに意見や要望を伝えるようにしている。	職員の職務に対する思いを反映させるためにも、より柔軟に意見が運営に反映させられる体制作りに期待したい。また、時には代表者との対話を行うことも望ましいと思われる。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	シフト勤務の時間帯の見直しなど、利用者の生活サイクルを考慮しつつ、改善を図っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部での研修で学んだことを職員会で他の職員に伝達するようにし、また職員会議のたびにテーマを決めて勉強会をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	サービス事業者連絡会やケアマネ会に出席するなど、交流の場に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の際にはご家族からの話になりがちであり、ご本人からは入居後に聞くことが多い。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族からの相談は随時お聞きして、不安を少しでも取り除けるよう心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者確保を第一とはせず、ご本人・ご家族にとって、グループホーム入居が本当に最適かどうかを考えるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員がすべて行うのではなく、入居者自身ができることはできるだけしていただくよう心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や受診付き添いを依頼するなど、ご家族との関わりが途切れないように心がけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族との面会・外出は多くあり、昔なじみのご友人が訪れていただくこともある。	家族が訪問した際には、一緒に外食や買い物に出掛けていることがある。さらに、法事や墓参り、正月には一時帰宅をされる方もいる。また、利用者が以前入居していた元利用者に会いに出掛けることもあり、馴染みの関係をつくっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性を把握し、間に職員が入って人間関係でのトラブルを回避するよう心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	在宅に戻られた方に、併設の小規模多機能の利用の声かけを行うなどしている。退去後に入所した特養へ面会に行ったりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の意向を随時聞き、できるだけ希望に添えるよう心がけている。	本人、家族からの聞きとりや、職員が日常的に利用者と接しながら得た情報を元に、独自の151項目にわたるアセスメント項目に添って、アセスメントを基本6か月周期で行い、それらを介護計画の作成につなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居申込時の面談や入居契約時に、本人の生活歴やサービス利用経過を把握するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居前の面談や入居後の様子を見て、把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人について気づいた点・気になる点など申し送りノートに記入し、朝の申し送り時にも確認するようにしている。また、入居者ご本人にも話を聞き、計画に反映するよう努めている。	介護計画は短期6か月、長期1年で作成し、見直しは基本6か月で行っている。職員が確認しやすいように、計画書の写しをピンク色の用紙にコピーし、目につきやすくする工夫も行っている。なお、カンファレンスは月1回、1～2人について検討している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録への記入、排泄チェック表の活用。日誌の特記事項への記入。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、ご家族の要望に、できるだけ柔軟に沿えるよう心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの方々(三味線・落語など)に来ていただき、入居者・職員ともに楽しんでもらえるよう心がけている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にご家族と話し合い、往診対応可能な提携医療機関への転院や、ご希望に応じて通い慣れた主治医に継続して受診するなど、個別に対応できるよう配慮している。	提携医の往診が月2回行われ、時間外の対応も可能な体制であるが、以前からのかかりつけ医の継続も可能であることを話している。通院が基本家族が行うが、困難な際には外出支援の団体を利用することもある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の資格を持つスタッフがおり、投薬の管理・体調管理など定期的に行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は見舞いに行き、入居者の状況把握を伺うなど、退院後にスムーズに戻られるよう配慮している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に施設としての考え方を話しし、ご家族の意見・希望をお聞きし、状況に応じた対応を心がけている。	ホームでは、ターミナルに関する指針を示し、本人、家族の希望に応じて、職員の配置を検討し、看取りの体制をつくることとしている。ただし、ターミナルについては1人とし、同時に複数の方の看取りを行わないこととしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	対応マニュアルに沿って初期対応を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	町会長・民生委員に運営推進会議に出席いただき、災害をテーマに挙げるなどの取り組みをしている。	併設小規模多機能との合同で避難訓練を毎月実施している。ホームには小規模多機能と合わせて夜間3人体制であるため、互いに連携できるように努めている。また、地域の方も参加したAEDの講習会の開催もあり、ホーム内の備蓄も確保している。	夜間3人体制は強みであるが、人数が多いことで緊急時の連携が課題とも言える。毎月の訓練実施を継続し、利用者、家族に安心感を与えられるように取り組まれない。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人のプライバシーに配慮するよう心がけている。	管理者は、言葉遣い、言葉かけには注意し、利用者の経歴や性格等を職員にも伝えており、利用者のプライドに配慮している。また、自分でトイレに行かれたり入浴される方には、後ろから見守るように努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人に合わせて言葉や話しかけ方を工夫し、接している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの希望を聞き、できるだけ叶えられるよう配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の更衣介助の際など、身だしなみを整えるようにしている。室内で厚着になりたがる方に、声かけにより適切な衣類を着用していただけるよう心がけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	下膳はできるだけご自分で行なっていたかくよう心がけているが、調理などはあまり関わっていない。配膳は一部の入居者が取り仕切って実施している。	法人の栄養士資格を持った職員がメニューを考え、それをホームが受け取っているが、その日の利用者の様子、職員の力量等からメニュー変更することもある。食事には職員も一緒に食べ、利用者とは話をしながら過ごすようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	趣向や小食希望の方など、個別の状況に応じて支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後・就寝前の口腔ケアの実施。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排尿・排便状況を記録にて把握している。	昼間はトイレ誘導を中心にでき限りオムツ使用にならないように取り組んでいる。夜間は利用者の状態に合わせて紙パンツ使用の方もいる。職員は、チェック表にチェックしながら、水分補給やトイレ誘導の声かけを行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排尿・排便状況を記録にて把握し、特に排便の間隔には気をつけている。間隔に応じて下剤の服用		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日を決めて、入浴の順番をローテーションするなど、公平に入浴ができるように心がけている。	入浴は日曜日以外毎日可能であり、実際に毎日入浴している方もいるが、一日おきの方が多い。入浴を拒む方には無理せず、間隔が開かないように気を付けている。また、季節のゆず湯もあり、楽しく入浴出来るように取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の睡眠がスムーズにできるよう、日中に散歩や体操などで体を動かしてもらうよう心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに薬の説明書をファイルするなど、投薬の確認には慎重に対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の生活歴や趣向の中から、その人に応じた楽しみを見出すように心掛けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物など、外出する機会を設けている。気候が良い時期には遠足・外食などを実施している。	日常的な散歩や、外出が好きな利用者には可能な限り出かけることができるように取り組んでいる。近所の神社や桜並木など、季節を感じてもらおうようにしたり、時には、喫茶店にも出かけて、利用者の楽しみになるようにもしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を手元に所持している入居者はおられず、施設側で管理させていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はかかってくることはあるが、かける事はあまりない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が作った作品(貼り絵・塗り絵)をリビングに飾り、季節感を感じられるよう配慮している。スタッフによる作品も飾っている。	キッチンユニットの中央に配置して、どの利用者也気軽に居室から出てきて、料理の様子を自然に見ることができる工夫がなされている。また、居室の配置は、職員から目が届きやすいが、プライバシーが保たれるようになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳のスペースに腰掛けたり、ソファで隣り合って座ったり、空間づくりに配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、在宅時に使い慣れた馴染みのあるものを持ち込んでいただくよう言葉掛けをしている。	利用者の生活に合わせた衣服や靴が整理されてあったり、テレビ等を持ち込んで、居室でゆっくり過ごしている方もいる。また、扉の小窓には花をあしらった飾り絵を貼り付け、利用者の様子が伺えつつも、部屋の中が丸見えにならないように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりを各所に取り付けたり、キッチンの高さを通常より低くしたり、高齢者が使用しやすいように配慮している。		

(別紙4(2))

事業所名 グループホーム うらら奥町

目標達成計画

作成日: 平成 24年 3月 9日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	5	スタッフのスキルアップの機会の確保	研修の活用	・外部の研修への参加を推進する ・勉強会の充実	3ヶ月
2	6	職員の職務に対する思いを反映させる為にも意見が運営に反映される体制作り	・会議、面談を行う ・代表者との対話	・管理者が個々に意見が聞けるように面談を行う ・代表者を加えた会議	ヶ月
3	13	災害対策・夜勤者3名(GH2名、小規模1名)の協力方法	夜勤3名の連携、役割の確立	毎月の訓練実施の中に夜勤も想定し、夜勤者3名の連携をはかる。	ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月